

ふ蔭もなし』の一首は、何人も雪中旅行の苦痛を味ふに足れりと同情する所なるも、此の際に於ける予を以て言はしめば、何ぞ其れ風流なるやと一喝し去らんのみ。熟々斯る場合に於て、斯る天候に對しては、如何なる措置を執るべきかを案ずる内、光景は劇變したり。其の脱兎の勢なりしものは俄に處女の如くなりぬ。其の猛烈なる飛雪の襲來は、倏忽として其鋒を斂めたりき。支那に於ける天候は恰も一般人間其者の風習に似たるも奇ならずや。

大泉子は人家五戸、總て旅店を營み、井あり泉水あるも鹹味を含まざるは無し。是より南行五日にして墩煌に、又東行十二日蒙古の境に到り得べければ、薪、食料の缺乏は、皆是等各地の供給を仰げり。

二、現道路と其開始

明くれば二十三日快晴、寒氣午前は七度、午後は十三度を示す。本日の宿泊地なる馬連井マリンチンは、戸數四戸内三戸は旅店、一戸は商店とし、外に兵卒僅かに一名を置けり。此日行程約九里。此地古老の言に據れば安西、哈密間の現在道路は、左宗棠西征の時、始めて開通せしもの、其の以前は東方に在りて飲料水乏しく、素より一個の人家